

二〇二〇年六月二十六日

定年のなき身と答へ海女潜る  
大正の玻璃戸に揺らぐ庭若葉  
継目なき松の柾目の廊涼し  
煙草屋の軒の燕と雨宿り  
電笠はオールドノリタケ梅雨の燭

宏 虎  
よう子  
うつぎ  
よう子  
うつぎ

夜涼みの汐風もらふ岬かな  
熱の子の寢息に安堵明易し  
琉金のじつとしてみて華やげる  
車椅子目線の介護花菖蒲  
花栗のにほひに咽せる能勢路かな

素 秀  
なつき  
はく子  
かかし  
小 袖

二〇二〇年六月二〇日

夏草や大坂越えの関所跡  
万緑の山迫りくる切通  
蜘蛛の糸曳きて行脚の大師像  
ロレンソの通りし道や山卯木  
傘寿刀自夏でも熱き茶を所望

素 秀  
ぼんこ  
うつぎ  
よう子  
はく子

二〇二〇年六月一日

向う岸は蛍の舞台杉襖  
田の神に泥跳ね上げて代田搔き  
せせらぎの他に音なし蛍狩  
雪溪を映して青き運河かな  
泳ぎきて岩に取りつく輩かな

うつぎ  
うつぎ  
よう子  
ひのと  
素 秀

二〇二〇年六月六日

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二〇年七月一四日